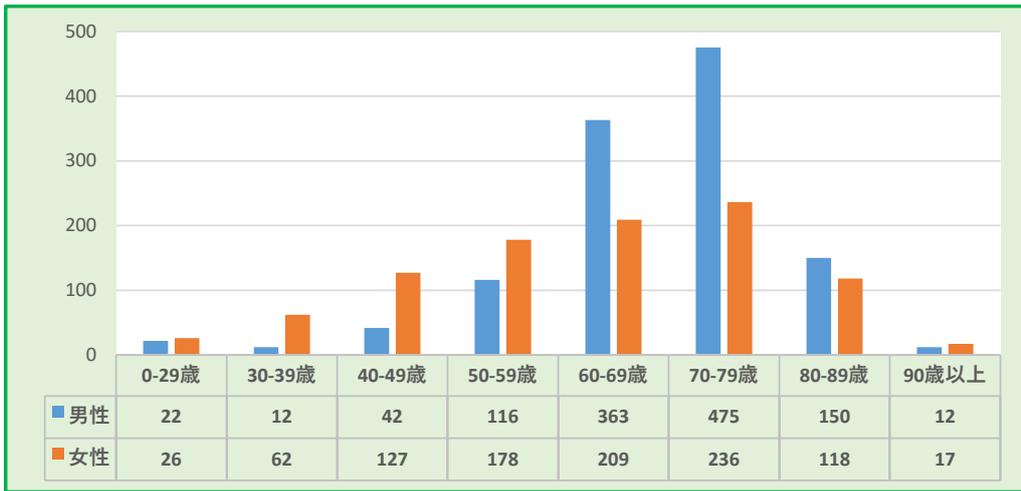


男女別登録数-年齢階級別



男性 1,192
女性 973
合計 2,165

年齢階級別登録数の上位5部位 -男性-

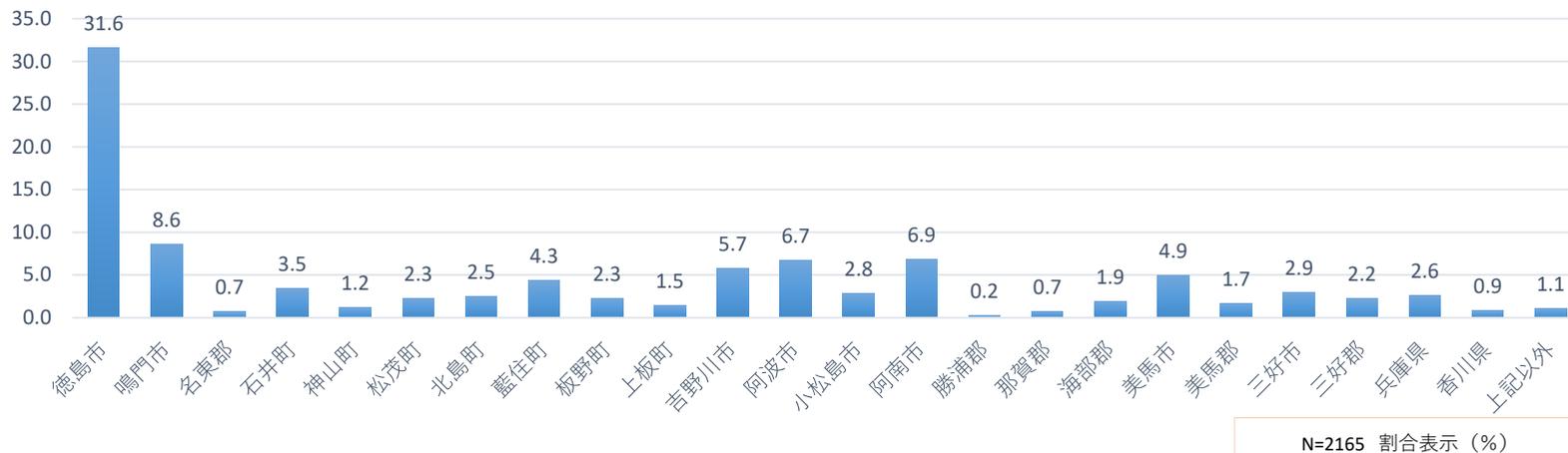


年齢階級別登録数の上位5部位 -女性-

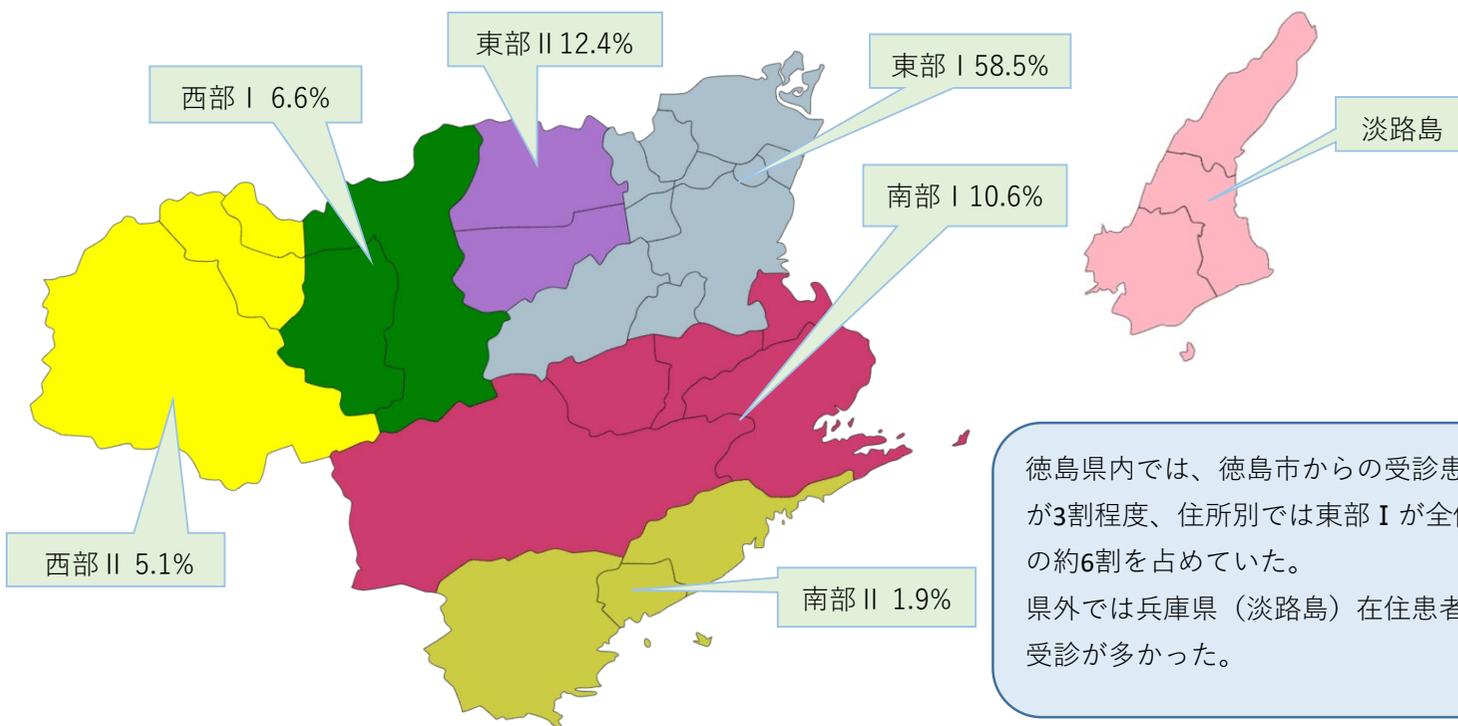


年齢階級別では男女ともに70歳代が最も多く、次いで男女とも60歳代が多い。60歳未満は男性より女性の割合が多い。年代別割合は、男性は60歳代と70歳代を併せると全年代の70%を占めている。部位別では、男性は40歳未満では脳・中枢神経系が上位であり、55歳以上は前立腺がんが多い傾向にある。女性は40歳未満では子宮頸がんが多く、40-84歳においては乳房が最多であった。男女とも各性別特有のがんが上位である。

市町村別登録数（上皮内がんを含む）



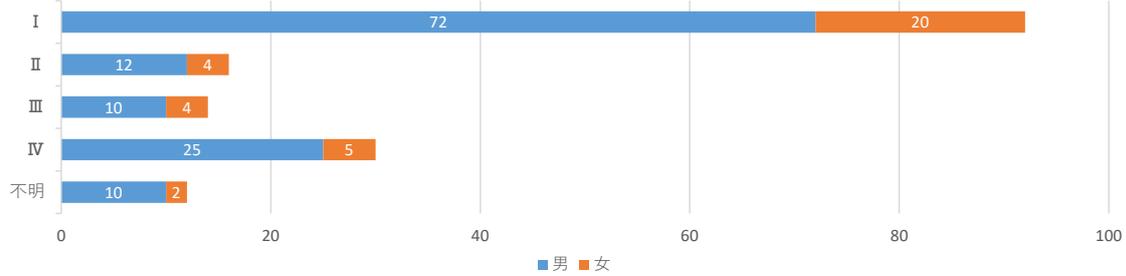
	住所	割合 (%)
東部 I	徳島市	31.6
	鳴門市	8.6
	名東郡	0.7
	石井町	3.5
	神山町	1.2
	松茂町	2.3
	北島町	2.5
	藍住町	4.3
	板野町	2.3
	上板町	1.5
	東部 II	吉野川市
阿波市		6.7
南部 I	小松島市	2.8
	阿南市	6.9
	勝浦郡	0.2
	那賀郡	0.7
南部 II	海部郡	1.9
西部 I	美馬市	4.9
	美馬郡	1.7
西部 II	三好市	2.9
	三好郡	2.2
県外	兵庫県	2.6
	香川県	0.9
	上記以外	1.1
	総数	100.0



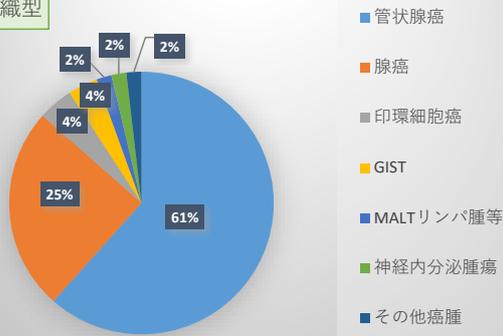
2020年症例 - 胃 -

徳島大学病院

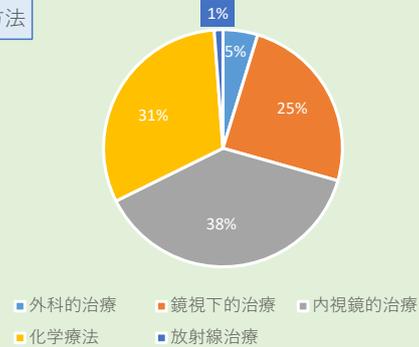
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法



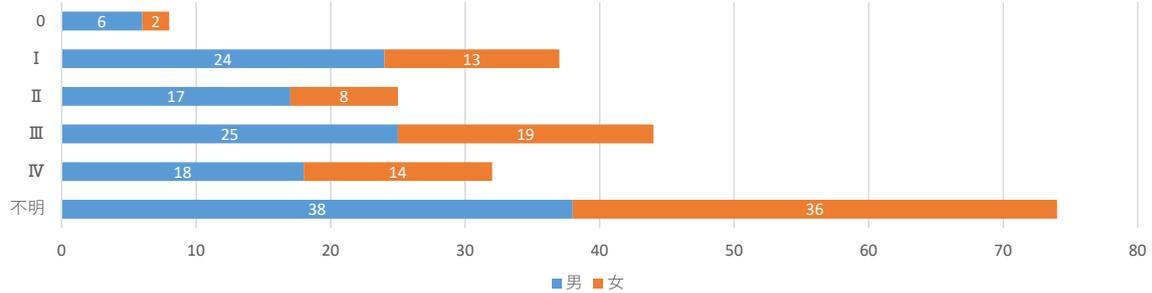
胃がんは、男性129件、女性35件で総数は164件、男性が女性の3.7倍であった。

ステージ別ではⅠ期が最も多かった。組織型は管状腺癌が半数以上を占め、腺癌とあわせると86%であった。治療方法では、手術は「内視鏡的治療」が最も多く、次いで「鏡視下の治療」の結果であった。「化学療法」についても3割程度実施されている。

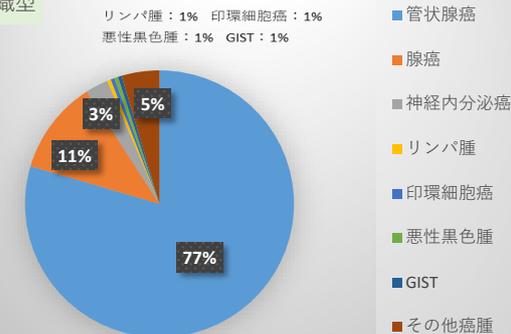
2020年症例 - 大腸 -

徳島大学病院

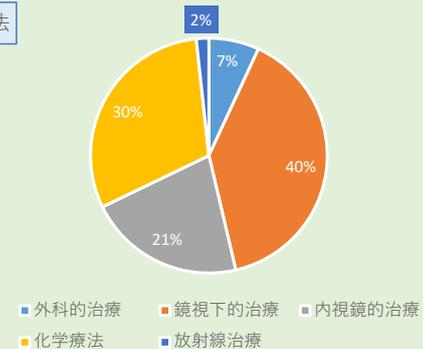
治療前ステージ別登録数



組織型



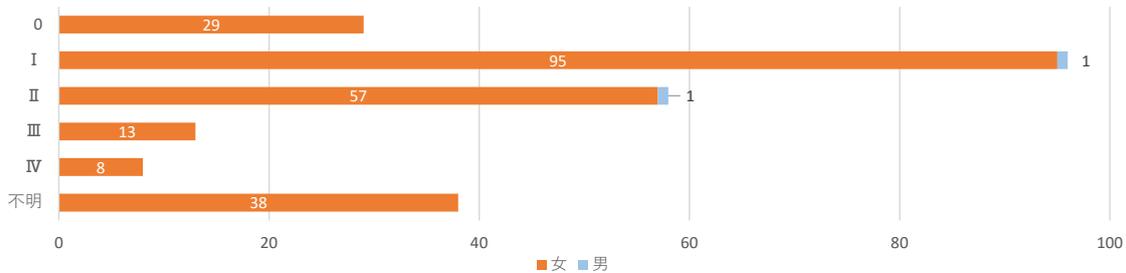
治療方法



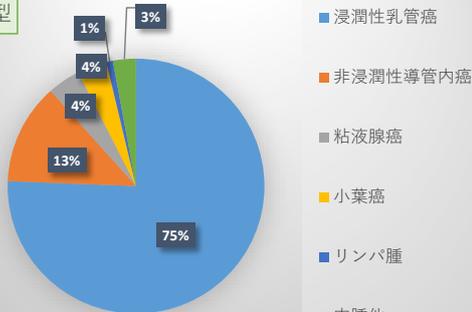
大腸がんは、男性は128件、女性は92件で総数は220件であり男性が女性の約1.4倍であった。

ステージ別はⅢ期が最も多く、組織型では管状腺癌が全体の8割程度を占め、次いで腺癌が多い。神経内分泌腫瘍も少数ではあるが症例があった。治療方法は、手術では「鏡視下の治療」が最も多く、「化学療法」も積極的に実施されている。

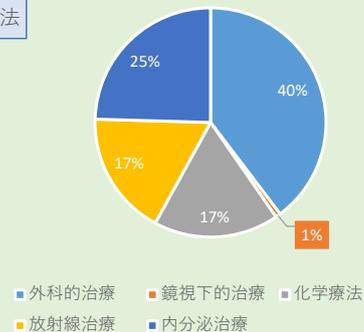
治療前ステージ別登録数



組織型



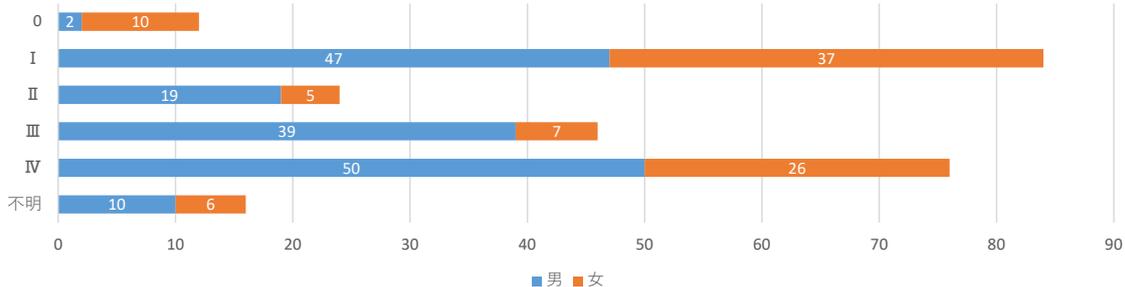
治療方法



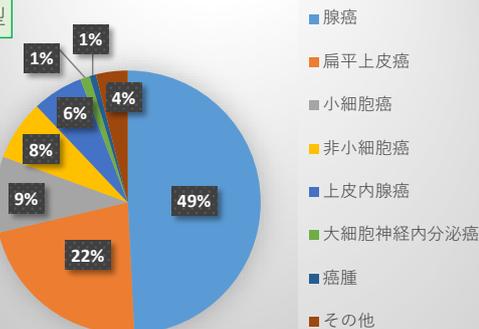
乳がんは、総数242件、概ね女性の登録であった。

ステージ別はⅠ期が最も多く、次いでⅡ期が多かった。組織型では、浸潤性乳管癌が全体の75%を占め、次いで非浸潤性導管内癌、小葉癌の症例があった。治療方法は、手術においては「外科的治療」が大半であり、「化学療法」「放射線治療」が同数であった。また、「内分泌治療（ホルモン療法）」についても積極的に実施している。

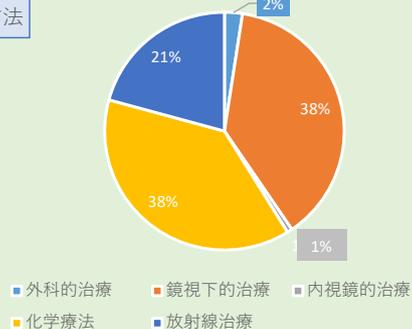
治療前ステージ別登録数



組織型



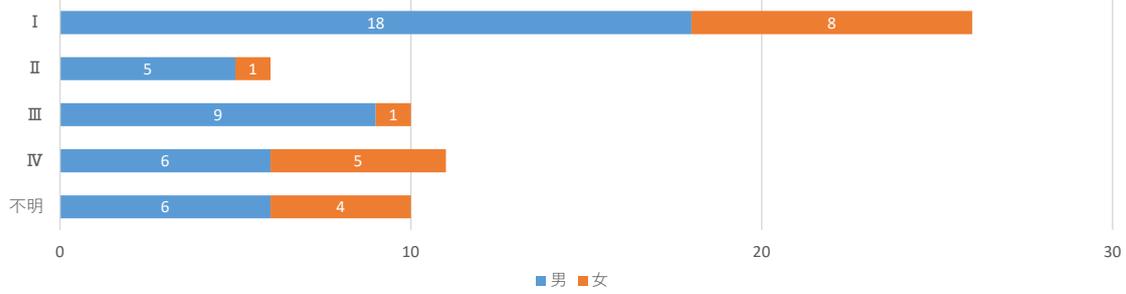
治療方法



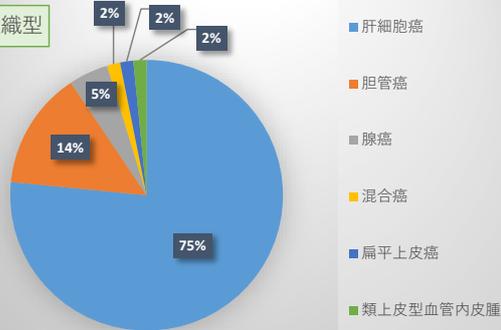
肺がんは、男性167件、女性91件、総数258件であり男性は女性の1.8倍であった。

ステージ別ではⅠ期が最も多く、次いでⅣ期の結果であった。組織型では腺癌が全体の約半数を占め、次いで扁平上皮癌、小細胞癌の症例があった。治療方法は、「鏡視下の治療」と「化学療法」が大半を占めており、「放射線治療」も実施されている。

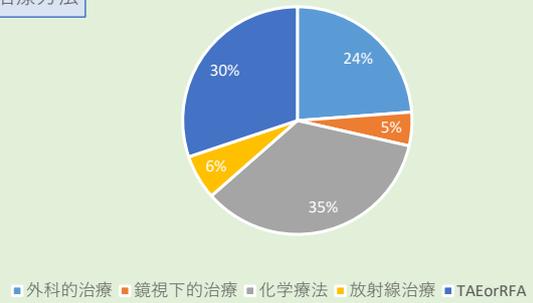
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法

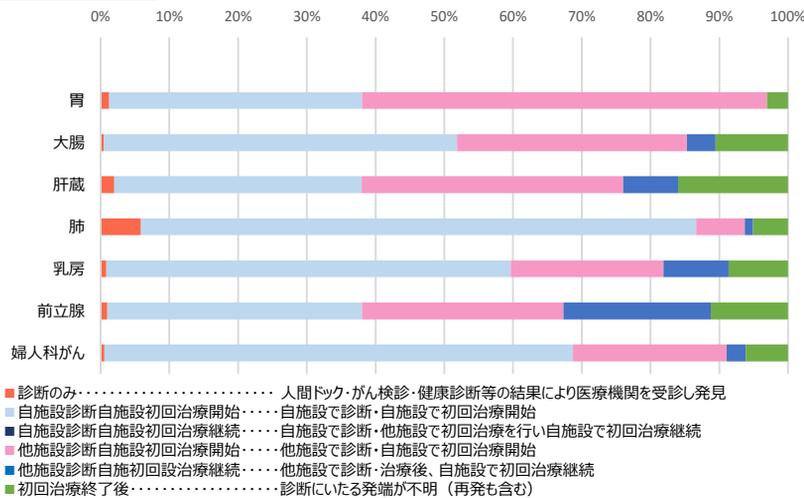


※TAE：肝動脈塞栓療法 RFA：ラジオ波焼灼術

肝がんは、男性は44件、女性は19件で総数は63件、男性が女性の約2.3倍であった。
 ステージ別では I 期が最も多く、組織型では、肝細胞癌が全体の75%を占め、次いで胆管癌が多い。治療方法は、「化学療法」と「TAEorRFA」の実施が多く、次いで「外科的治療」の結果であった。

症例区分

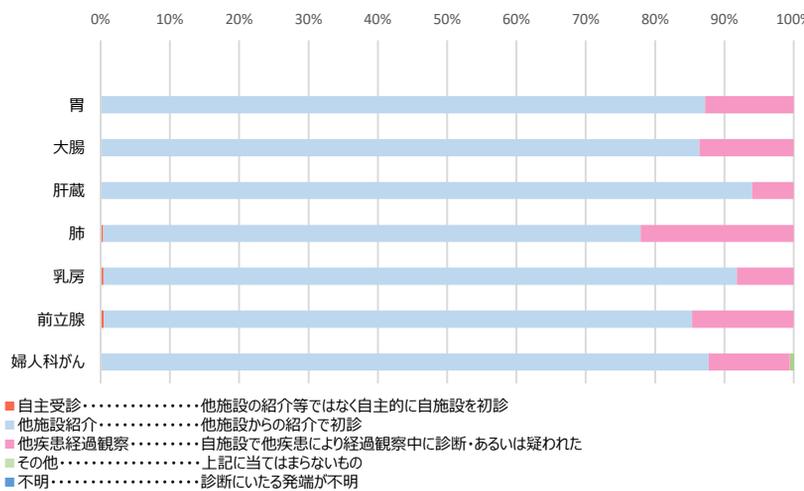
当該腫瘍の診断および初回治療の過程に、自施設でどのように関係したかを判断



	診断のみ	自施設診断 自施設初回 治療開始	自施設診断 自施設初回 治療継続	他施設診断 自施設初回 治療開始	他施設診断 自施設初回 治療継続	初回治療 終了
胃	1~3	60	0	96	0	4~6
大腸	1~3	112	0	73	7~9	23
肝臓	1~3	25	0	22	4~6	7~9
肺	15	206	0	18	1~3	13
乳房	1~3	142	0	54	23	21
前立腺	1~3	76	0	61	44	23
婦人科がん	1~3	121	0	40	4~6	11

来院経路

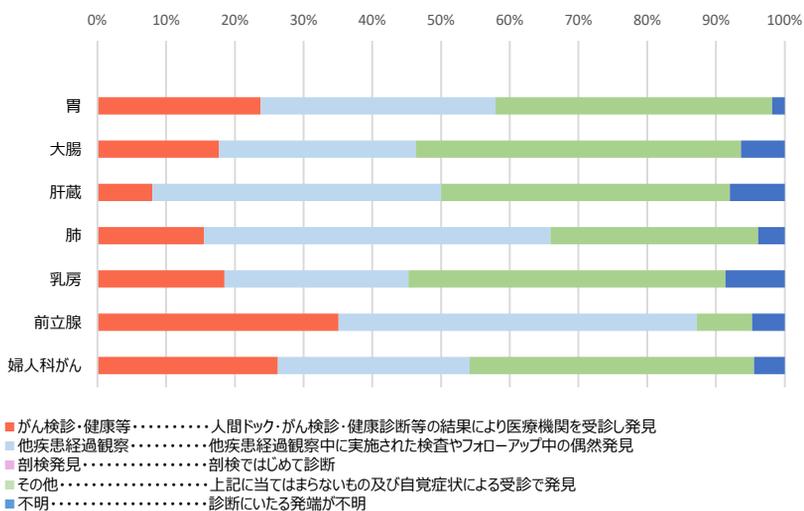
当該腫瘍の診断・治療のため、どのような経路によって自施設を受診したのか把握



	自主受診	他施設紹介	他疾患 経過観察中	その他	不明
胃	0	143	21	0	0
大腸	0	190	30	0	0
肝臓	0	57	4~6	0	0
肺	1~3	200	57	0	0
乳房	1~3	221	20	0	0
前立腺	1~3	180	31	0	0
婦人科がん	0	156	21	1~3	0

発見経緯

当該腫瘍が診断される発端となった状況の把握



	がん検診 健診等	他疾患 経過観察	剖検発見	その他	不明
胃	39	56	0	66	1~3
大腸	39	63	0	104	14
肝臓	7~9	27	0	25	4~6
肺	40	130	0	78	10
乳房	45	65	0	112	20
前立腺	74	111	0	17	10
婦人科がん	47	50	0	73	7~9

症例区分では、自施設診断・他施設診断ともに初回治療に関りがみられ、中でも肺がんにおいてはほとんどの症例が初回治療を担っている。来院経路においては他施設からの紹介が全体の8割強を占め、集計値から都道府県がん診療連携拠点病院の特性が顕著に表れていることがわかる。

発見経路では、他疾患経過観察中・その他（自覚症状等）が多く、早期発見に繋がる健診が下回っている現状が見て取れた。肺がん・前立腺においては、経過観察の後、治療を開始する症例が多いため、他疾患経過観察中の発見が多いという結果になったと考えられる。